

## 事業報告

講座名	親子のための出前環境塾	
日時	第1回	平成21年11月20日(金) 9:00～12:30
	第2回	平成21年12月21日(月) 9:00～14:00
	第3回	平成22年2月19日(金) 9:00～11:00
	第4回	平成22年2月25日(木) 10:30～12:00
場所	第1回	岩国市立杭名小学校(岩国市立杭名18-2)
	第2回	長門市立日置小学校(長門市日置上6150-1)
	第3回	美祢市立田代小学校(美祢市於福町上916)
	第4回	下関市立豊東小学校(下関市菊川町上大野20-1)
参加者	第1回	37名(児童29名、保護者等8名)
	第2回	55名(児童41名、保護者等14名)
	第3回	16名(児童9名、保護者等7名)
	第4回	90名(児童81名、保護者等9名)

この講座は、全県的な環境学習の推進を図るため、セミナーパークから遠隔地にある地域の小学校等と連携し、小学生及び保護者等を対象とした環境問題に関する学習会を開催し、家庭や地域において環境問題について理解を深め、考え、行動できるようになることを目的として開催した。

### 第1回

#### ○ 日程

9:00～ 9:05 開会あいさつ

9:05～ 9:50 エコかるたを活用した環境学習

9:50～12:30 自然観察(野外にて動植物の観察、クマ劇場、ネイチャーゲーム等)

#### ○ 講座内容

##### 1 エコかるたを活用した環境学習

「エコかるた」を活用した環境学習の第一回目を行った。

児童を4グループに分け、板垣コーディネーターの読みあげに合わせて絵札を取っていった。板垣コーディネーターは、それぞれの読み札について解説を加えたり、各家庭や地域、学校での取組等について意見を聞き出しながら、進めていった。

競い合いながら絵札を取るということ、読み札と絵札を意識しながらその意味を考えるとということ、そして自分たちが行っていることについてあらためて振り返るとのことなど、エコかるたを活用した環境学習について手応えを感じた。

- ・エコかるた：県内の小学生や山口大学の学生の協力を得て、環境学習推進センターで作製したもの



## 2 自然観察

野外で橋本、金丸両こどもエコクラブアドバイザーにより、自然観察を行った。学校から目的地までの経路では、安全な場所で植物や昆虫等の観察を行い、目的地ではそのフィールドを活用して自然と人との関わりや、自然の中での人の役割等について、ゲームや劇により学んだ。

特に「クマ劇場」は、子ども達に好評であった。

- ・クマ劇場：クマを自然界の代表として登場させ、自然と人との関わりについて表現した劇



## 第2回

### ○ 日程

9:00 ~ 9:05 開会あいさつ

9:05 ~ 11:00 わくわくEスクール

11:00～12:00 環境学習

13:00～14:00 水素ハイブリッド自動車による環境学習

○ 講座内容

1 わくわくEスクール

中国電力の方を講師として学習を行った。

日置地区には風力発電設備があることから、CO<sub>2</sub>を出さないことなど、自然エネルギーを利用したその特性について詳しく解説があった。また、電気の役割、発電の方法、家庭までの送電の方法や電気の節約のヒント等について、実験や工作により、学習を行った。とくに、全員がそれぞれ行った「フィルムケース発電」の工作では、水道水と銅板、亜鉛板という身近なもので電気が発生し、電卓が使用できることに驚きの表情を浮かべていた。

また、各種の発電のしくみを体験できる機材に触れる場面では全員が夢中になっていた。



2 環境学習

徳永コーディネーターによる地球温暖化の話や、エコライフチェックビンゴを行った。

温暖化の実態やその原因、またその対策として自分たちに出来る身近なこと等についてスライドにより解説した後、温暖化防止対策を含めたエコライフ全般について「75のチェック項目」を、みんなの興味を引きつけるためビンゴゲームをもとに進めていった。

保護者からは、「家族で環境問題について話しあいたい」「75のチェック項目を少しづつやっていきたい」等の感想が得られた。

また、日置小学校4年生が校区内の各家庭に、アサガオの種とともに発信した「ストップ！温暖化 緑のカーテンを作ろう」の紹介があった。

### 3 水素ハイブリッド自動車による環境学習

全校生徒194名、教職員17名を対象に行った。最初に講堂で、県環境政策課から地球温暖化や、低公害車普及のシンボルである水素ハイブリッド自動車の解説を行った後、グループ毎に外で自動車に触れながら環境政策課および当センターで説明を行った。



#### 第3回

##### ○ 日程

9:00～ 9:05 開会あいさつ

9:05～ 9:40 エコかるたを活用した環境学習

9:40～10:20 ・ごみはゴミ？

・ごみはどこでどうなるのだろう？

10:20～11:00 リサイクル工作（ペットボトル風力発電機）

##### ○ 講座内容

#### 1 エコかるたを活用した環境学習

「エコかるた」を活用した環境学習を行った。

全校生徒9名及び保護者、先生を3グループに分け、板垣コーディネーターの読みあげに合わせて絵札を取っていった。かるた取りが終了した後に、各自が取ったものから印象に残った札について、解説を加えたり、各家庭や地域、学校での取組等について意見を聞き出していった。



## 2 ごみはゴミ？

ごみはどこでどうなるのだろう？

美祢市リサイクルセンターの篠原氏及び板垣コーディネーターにより、ごみの分別や処理、再生等について、話があった。

アルミ缶を圧縮処理した実物の重さや缶の数等について、クイズ形式で興味を引きつけながら、進めていった。

- ・アルミ缶の圧縮処理：重さ15kg、缶数1,100個



## 3 リサイクル工作（ペットボトル風力発電機）

ペットボトルを加工して風車をつくり、発電機に接続しLEDを発光させた。各自が工作を行い、それぞれ息を吹きつけ風車を回して発光するということを体験した後、発電のためには大きな労力が必要なこと、だからエネルギーはムダにはできないということ、自然エネルギーの利用等について学んでいった。



#### 第4回

##### ○ 日程

- 10:30～10:35 開会あいさつ
- 10:35～12:50 リサイクルについての環境学習
- 12:50～12:00 昆虫の話

##### ○ 講座内容

今回は、4年生児童32人に対しては、今までに学習してきたことのふり返りを、3年生児童49人に対しては、4年生になって学ぶことに対する予習という意味で、曾我アドバイザーによりリサイクルを主体に学習した。

まず、地球温暖化の現状について映像を使って説明したあと、クイズやマジックを使い、リサイクルの必要性を説いた。



- ・資源はいつまでもあるのではなく、有限であり、私たちの使える石油は、富士山が100%の資源量とすると、富士山を逆さまにした入れ物の底に少し残ってい

る程度で、約1/8ぐらいしかないこと

- ・リサイクル商品には、リサイクルマークが付いており、それぞれ意味があること
- ・人間1人が1年間に使用するレジ袋は315枚であり、このレジ袋を作るために必要な石油で電気を作ると、蛍光灯のスタンドを4時間つけることができること
- ・発電のためのエネルギーを、児童に自転車を漕いでスタンドを点灯させて体験

体験や話の後に、曾我環境アドバイザーが作詞した「ちきゅう応援歌」を一緒に歌い、資源の大切さや省エネルギーの必要性を胸に刻んだ。

最後に、徳永コーディネーターが昆虫のコオイムシを通じて、自然環境の大切さを教えた。

(まとめ)

全県的な環境学習の推進ということ、そして家庭及び地域を巻き込んだ環境学習ということを目的として今年度から新たに始めた取り組みであり、講座での手応えやアンケートから一定の効果は得られたと判断できる。

今後は、参観日や総合学習の時間のさらなる活用や、対象校(地域)の選定等、さらに目的を達成できるよう、取り組んでいきたい。